

1 休符と音符の長さ、拍子

音符名 [記号] 休符名 [記号]	全音符 (=1 小節) を 1 としたときの長さ	4 分音符を 1 としたときの長さ
16分音符 [♪] 16分休符 [♪]	16 分の 1	4 分の 1
付点16分音符 [♪.] 付点16分休符 [♪.]	16 分の 1 + <u>16 分の 1 の半分</u> = 32 分の 3	4 分の 1 + <u>4 分の 1 の半分</u> = 8 分の 3
8分音符 [♪] 8分休符 [♪]	8 分の 1	2 分の 1
付点8分音符 [♪.] 付点8分休符 [♪.]	8 分の 1 + <u>8 分の 1 の半分</u> = 16 分の 3	2 分の 1 + <u>2 分の 1 の半分</u> = 4 分の 3
4分音符 [♪] 4分休符 [♪]	4 分の 1	1
付点4分音符 [♪.] 付点4分休符 [♪.]	4 分の 1 + <u>4 分の 1 の半分</u> = 8 分の 3	1 + <u>1 の半分</u> = 2 分の 3
2分音符 [♪] 付点2分休符 [≡]	2 分の 1	2
付点2分音符 [♪.] 付点2分休符 [≡]	2 分の 1 + <u>2 分の 1 の半分</u> = 4 分の 3	2 + <u>2 の半分</u> = 3
全音符 [♩] 全休符 [≡]	1	4

表を見ればわかる通り、**全音符を 1 としたとき**、

2 分音符、4 分音符、8 分音符、16 分音符、…の長さは 2 分の 1、4 分の 1、8 分の 1、16 分の 1、…

である。さらに、

(全音符を 1 としたときの長さ) × 4 = (4 分音符を 1 としたときの長さ)

が成り立つ。

たとえば、**4 分音符を 1 としたとき**、 $\text{♪} = \text{♪} + \text{♪} = (4 \text{ 分の } 1) + (2 \text{ 分の } 1) = (4 \text{ 分の } 3)$ であるから、 ♪ の長さは ♪ の長さと等しい。

2 「Joyful, Joyful」

[作曲者] **ベートーヴェン・M. ウォーレン** [拍子] **4分の4**

[音楽記号] **mp**: メzzoピアノ, 少し弱く **mf**: メzzoフォルテ, 少し強く **f**: フォルテ, 強く
v: プレス, 息つき **>**: アクセント, その音を目立たせて **ff**: フォルティッシモ, とても強く
>>: デクレッシェンド, だんだん弱く

[A], [B] の違い

	A	B
速度	$\text{♪} = 76$	$\text{♪} = 116$
強弱	mp ⇒ f ⇒ ff	f ⇒ ff
曲想	のびのびとした, 落ち着いている感じ。	はずむように, いきいきとした, 躍動感。
中心となるリズム	♪ (一定)	♪ , ♪ , ♪
調声	ニ長調	ヘ長調

3 「自分らしく」

[作詞・作曲] ^{まついたかお}松井孝夫 [拍子] 4分の4 [ふさわしい速さ] ♩=96

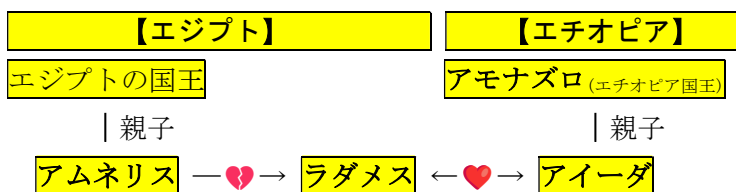
[音楽記号] *cresc.* : クレッシェンド, だんだん強く *unis.* : ユニゾン, ユニゾン(同じ旋律であるということ)

Meno mosso : メノモッソ, 今までより遅く **Tempo I** : テンポ・プリモ, 最初の速さで
poco rit. : ポコリット, 少しずつ遅く ♩ : フェルマータ, その音を程よくのばして

4 「アイーダ」

[作曲家] ^{ヴェルディ}ヴェルディ(イタリア出身)

[登場人物とその関係]



[場面] 第1幕 : 「清きアイーダ」, 歌者 : ラダメス 第2幕 : 「^{がいせん}凱旋の場」, 歌者 : ^{さいいし}民衆や祭司たち

第3幕 : 「おお, 我が故郷」, 歌者 : アイーダ

第4幕 : 「さらばこの世よ, 涙の谷よ」, 歌者 : ラダメス・アイーダ

[オペラについて(教科書p. 55)]

オペラ(歌劇)は, 音楽を中心として, 文学・演劇・舞踊・美術など, 様々な要素が密接に結びついた総合芸術です。歌を中心としながら, 通常, オーケストラを伴って上演されます。

16世紀末, イタリアのフィレンツェで生まれたオペラは, その後イタリアを中心にヨーロッパ各地で流行しました。19世紀になると, 各国でそれぞれ特徴のあるオペラが作曲されるようになりました。

よく知られている作品には, ^{ちょうちょうふじん}ブッチーニの「蝶々夫人」(イタリア), ^{ワーグナー}ワーグナーの「タンホイザー」(ドイツ), ^{ビゼー}ビゼーの「カルメン」(フランス)などがあります。

5 歌舞伎

[歌舞伎について(p. 56)]

歌舞伎は, 歌(音楽)・舞(舞踊)・伎(演技)の要素を融合した日本の伝統的な演劇です。その起源は, 1603年に京都で^{いずも}出雲のお国が興行した「^{おどり}かぶき踊」だといわれています。それがしだいに劇としての要素を兼ね備えるようになり, それぞれの時代の流行や他の芸能の要素などを巧みに取り入れながら, 総合芸術として発展しました。

現在では, ^{ががく}雅楽や^{のうがく}能楽(能・^{きょうげん}狂言), ^{ぶんなく}文楽(人形浄瑠璃)などとともに「^{じょうるり}ユネスコ無形文化遺産」に登録され, 海外からも高い評価を受けています。

^{かんじんちょう}[勧進帳のあらすじ(p. 56)]

^{よりとも}兄頼朝と不仲になり, 追われる身となった^{みなもとよしつね}源義経は, 家来たちとともに京都から^{おうしゅうひらいずみ}奥州平泉の藤原氏のもと

へ逃れようとしています。^{むさし ぼうべんけい}武蔵坊弁慶と4人の家来は^{やまぶし}山伏と呼ばれる修行僧に、義経はその^{ごうりき}強力(荷物持ち)に変装しています。

一方、^{かがのくに}加賀国にある^{あたか}安宅の関所では、^{せきもり}関守の^{とがしの さ えもん}富樫左衛門が3人の^{ばんそつ}番卒(見張り)とともに、一行を捕らえようと待ち構えています。